

## 第1回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in 南陽市

【と き】 平成21年5月26日（火） 14:00～16:00

【ところ】 南陽市役所 大会議室

【参加者】 参加者総勢 160名



- 【1 結城豊太郎記念館について】
- 【2 やまがた緑環境税について】
- 【3 山形セレクションについて】
- 【4 大粒ぶどう振興策について】
- 【5 おうとう栽培の施設化について】
- 【6 農業活性化推進本部について】
- 【7 農業委員会について】
- 【8 堆肥散布機への助成について】
- 【9 国民健康保険料について】
- 【10 婦人会について】
- 【11 男女共同参画について】
- 【12 赤湯停車場線について】
- 【13 鳥上坂の景観について】
- 【14 白竜湖の景観について】
- 【15 観光誘客について】
- 【16 こどもの健全育成について】
- 【17 歴史・文化のパンフレットについて】
- 【18 障がい者の就労について】

### 【1 結城豊太郎記念館について】

☆南陽市名誉会員であられる結城豊太郎先生の遺徳を顕彰して、意見を述べさせていただき、さらに要望を申し上げたいと思います。南陽市の結城記念館、臨雲文庫は結城先生が情熱を込められた郷土愛、人間愛、救世済民そして教育の遺徳であり、ぜひ南陽市民として顕彰しなければならない義務。風也塾という看板が臨雲文庫の玄関に掲げてほしい。学芸員（塾長さん）を置いていただくことを要望します。

知事

ありがとうございます。結城豊太郎先生は、本当に山形県の誇るすばらしい方だと思っております。市長さんにもご相談申し上げたいと思っておりますが。看板についてはいかがでしょうか。

市長

市の社会教育課長が記念館館長となりましたのでご安心ください。私も現地を視察に行きます。

### 【2 やまがた緑環境税について】

☆南陽市で緑陰学級をやっています。参加者が多く、材料費がなくて、何回か県に補助金をお願いしましたがだめでした。今回、南陽市の農林課の方と一緒に申請し認めてもらいました。ありがとうございます。知事さんの求めているあたたかい県政というのは本当だと思いました。まだ振り込まれていませんが、早く届けばいいな。

みんなのみどり環境税だから、使い方についてもかなり厳しいところもあります。あれダメこれダメのところの枠をもうちょっと広げてもらえばありがたい。今日は言いたくて来ました。よろしくお願いします。

知事

ありがとうございます。大変ありがたいお言葉ですが、温かさはお金がすべてではないと思っています。ぜひこれからもそういう仕事を続けて頑張ってくださいと思っています。

司会

それでは、続いて進めさせていただきます。恐れ入りますが、短くまとめていただいて、よろしくお願いします。

### 【3 山形セレクションについて】

☆認定農家協議会と申します。

今日は、山形セレクションについて、お願いしたいと思って参りました。今、県でもい

ろいろ議論を重ねているようですけれども、南陽市では農協の共選ということで、さくらんぼ、ラフランス、りんごと認定をいただいているところです。三年目になりまして、いよいよ知名度も上がってきておりますので、ぜひこれは継続をしていただきたい。

#### 知事

セレクションについてのご意見、様々おありかと思っておりますけれども、私は見直した方がいいのではないかという立場です。やはり恩恵を受ける方があまりにも少ないというのがございます。さくらんぼでいえば、全体量の **0.07%**とどまっているということもありますし、大半の方がそのセレクションの恩恵を受けていないという現実もございます。もちろん全体的なことを見なくてははいけないのですけれども、今まで募集認定してきた品目につきましては、今年度はとにかく従来通りの手続きで、進めさせていただいて、セレクションの会議もございますので、そこでいろいろご検討いただいております。

今年ずっとご検討いただいている中で、どういう支援でいったら、山形県の農業全体のためにいいのか、そしてお一人お一人の生産者のためにもなるような、そういう総合的な視野を持って考えていきたいと思っております。

#### 産業経済部長

今、山形セレクションについて知事からお答え申し上げましたように、本年度につきましては、従来通りの手続きを進めていくということでございます。

また、制度の恩恵を受けている方、あるいは数量の問題等もございますことから、今、分野別に見直しを進めております。山形セレクション会議の他に、生産者の方、あるいは消費者、あるいは流通に関係者の方々から、幅広くいろんな実情とか課題をお聞きしながら、できるだけ多くの方々が、意欲を持って生産に取り組めるような制度を作っていくように、検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。

#### 知事

もうひとつ付け加えて、セレクションは、**3**年後に一旦少し見直すということは、当初からの予定になっておりまして、ちょうど今年がその年になっています。それもありまして、今、検討を進めさせていただいているところでございます。その件、よろしくどうぞお願いいたします。

#### 【4 大粒ぶどう振興策について】

☆郡山で農業をやっております。

私はぶどうを作っていますが、ぶどうの業界、流通業界で、大粒の新しい品種「シャインマスカット」が南陽・高島を中心にして、かなりの面積となっています。

全国的に注目されている品種が、今まさに出ようとしている時、これを起爆剤にさくら

んぼ、デラウェアに次ぐ山形の産地作り、またブランドにして欲しいなと思っています。それには、農協さんも一生懸命がんばっているのので、行政、県の力添えをしていただいて、より良い産地になるようによろしくお願ひしたいと思います。

#### 知事

大粒ぶどうの新品種の振興ということでご意見伺いました。こちら南陽といえぶどうというふうにも私も思っておりますし、高畠の方でもぶどう頑張っておられますし、また寒河江の方でも。山形県のぶどうの生産高というのは、全国的にも上位で、大粒ぶどうの新品種の振興でお話がありましたが、今、それ、開発の方はどうなっているのでしょうか。

私「つや姫」を田植えしたときに、山形県の農業総合研究センターが山形市にあるんですね。そこで、ちょっと話を聞いてみたんですが、やはり果樹の新品種開発は常にしていけないといけない。やはり他県でも頑張っておりますし、それから温暖化の影響でちょっとずつ温度が上昇しているものですから、さくらんぼが、今、秋田とか青森でできているんですね。北海道でおいしくなかった「きらら」という米が、おいしくなっているのですね。それは、温暖化というものを視野にいれながら、常に新品種改良とか、農業というものを開発といいますか、力を入れなければいけないと思っておりますし、温暖化担当というものを今年県庁の中に置きました。そちらの方も支援していきたいと考えております。ぶどうの方はどうなっておりますか。

#### 支庁長

今、大粒種でシャインマスカットという話がありました。これは、全県的にも一番有望な品種ではないかということで、県としても栽培マニュアルというものを作っております。それから、この置賜地域では、シャインマスカットは白系統なのですが、赤系統の方でゴルビー、あるいはベニバラードというものも、何とか研究してくれという話もありまして、こちらの方については、実証圃を設置して、置賜地域での適応性等を検討しているところです。

#### 【5 おうとう栽培の施設化について】

☆鍋田地区水田畑地化協議会の会長です。

施設化をするに当たって、昨年の原油高の影響から、鉄骨の資材、機材そういったものが **160%**から **180%**ぐらい値上げになっています。雨よけハウスができてから **30**年経過し、非常に危険が多くなっています。施設化に対する県の補助は3分の1ですが、資材の値上げの部分でほとんどなくなってしまいます。補助率のアップというものも検討していただきたいです。

もう一点ですが、白竜湖が小さく、浅くなったということでございます。火災の時、県

の防災ヘリが白竜湖にバケツを入れて水を汲む時、**60～70 c m**ぐらいの深さしかないということで泥が入って汲めなかったということです。県南自然公園であり何ともできないということですが、県知事さんならば、たぶん何かできると思いましてお伺いします。

知事

水田の畑地化ということで、既に畑地化というところ、どういうふうになっているのかなと思うんですけれども、それから、おうとうのハウスの補助率アップということで話が出たんですけれども、その辺については、南陽市さんの方ではどのように。

市長

南陽市は県の補助に比例して県が上げれば上げるしと、極めて単純なんです。県の方にぜひ上積みや、3分の1と言わず半分とか、願わくば3分の2ぐらいしていただくと耕作者は非常に喜ぶと、こういうことになるのではないかと私は思っております。

支庁長

ちょっとご説明いたしますと、今の雨よけテントにつきましては、県の単独事業なんです。さくらんぼ産地活性化緊急対策事業というふうな形でやっております。機能更新・機能改修とかいうのがありますが、なお、申し上げておきますと、この事業は今年度限りとなります。できるだけ早く、予算の枠のあるうちに申し込んでいただければと思います。

その他に、山形園芸担い手チャレンジプラン支援事業というのがあるんですが、これは無加温ハウスとかハウスの方になるんで、どちらかといえば、さくらんぼ産地活性化事業について申し込みいただければと思います。

3分の1というのは、やはり初期投資をなんとか軽減しようと、今ありましたように資材費も非常に高騰している事情というのは承知しているわけなんです。基本的には初期投資の負担軽減という観点からしているものでございます。その辺も踏まえまして、知事がおっしゃるように、もう少し考えさせていただきたいと思います。

市長

支庁長さん、そのぐらいしないと知事もマニフェストの**1.5**倍が達成しないと思います。まず、がんばってお願いします。

## 【6 農業活性化推進本部について】

☆ 忙しいところ、よく南陽市にお越しいただきました。南陽市農業委員会の会長でございます。

農業振興策と共に、農業委員会では農地行政をやっておるわけでございますけれども、農業振興については多くの方が発言なさっておりますので、私の方からは農地行政につ

いて質問させていただきたいと思います。

県の方では、4月に農林水産業活性化推進本部を立ち上げていただきまして、既にワーキンググループの話し合いが始まっているということで、ぜひ農業者が将来に向けて頑張れるような支援を早急にお出しいただければと、期待をもってご要望申し上げます。

本国会で農地法の改正が提出されまして、衆議院を通過しております。更に参議院で審議中でございますけれども、その中に8項目、ひとつずつ申し上げますと時間の関係もあろうかと思っておりますので、8項目が改正されようとしております。それに伴いまして、農業委員会に課せられる役割が、いろいろと現在の業務よりもチェック機能なり、あるいは範囲を広げて指導するなり、あるいはそういうような業務の拡大の方向につながっているというような改正の内容と受け止めております。それによりまして、いろいろ国の方からは、農業委員会が機能強化を図ってスムーズな業務に当たれというようなことが言われてきておるわけでありまして。

ただ、ここ10年来農業委員会は国からの交付金によって業務を担っておるという一面があるわけでございますが、南陽市におきましては、平成11年は約750数万円ですか、国からの交付金ございました。21年度の予算の段階では280万円ほど、38%ほどが削減になっておりますので、やはりあの農地法の改正に合わせまして、農業委員会の業務の拡充なり、あるいはその分の経費の掛かり増しといたしますか、当然考えられるわけでございますので、そこを知事さんにおかれましては、機会のあるごとにですね、国の方に要望あるいは要請を合わせて執り行っていたいただきたいと思いますところでございます。

私ども山形県農業会議も、会長を中心としまして、いろいろと意見を積み上げているところでございますけれども、農地法の改正点については、山形県の農業会議の中で小委員会でもとめたものを、国あるいは全国農協、農業委員会全国会議の方に提出しております。会長も一生懸命取り組んでおられますけれども、ぜひ知事の方からも要請・要望を強くお願い申し上げますところでございます。よろしく申し上げます。

#### 【7 農業委員会について】

#### 【8 堆肥散布機への助成について】

☆農業委員です。

エコ農業、環境農業、環境循環型農業について、質問とお願いをしたいと思います。山形県は「エコエリアやまがた」ということで、環境保全型農業を推進しているわけがありますけれども、その前は「マイルド農業」ということで非常に全国的にも有名といたしますか、5本の指に入ると言われるほど、環境保全型農業を推進する先進的な役割を果たしておりました。ここ数年影が薄くなってきていると私は思いますけれども、有機農業推進法もできまして、消費者の関心も高まっているわけでありまして、ぜひ力強く推進していただきたいというのがお願いであります。

具体的にですが、私ども南陽市では、堆肥の循環に対して支援をしております。これ

は畜産三法（農業環境三法？）ができて、畜産農家が堆肥の処理に非常に困っていると、一方で耕種農家は高齢化して、堆肥を田畑に入れるのが大変になっているというようなことへ対する支援でありまして、隣の高島町や白鷹町でもここ数年始めておりますし、米沢市でも検討されていると聞いています。私はこれ、一石二鳥という言葉がありますけれど、一石三鳥も四鳥も効果がある政策だというふうに思っております。ここからは塩田市長に頼まれているわけではありませんけれども、南陽市の財政事情大変なようでありまして、ここ5年ほどやってきたんですが、少しずつ削られてきております。こういう制度、私は土地は県民の財産といいますか、国の財産だと思っております、これを肥やすのは大変重要なことだと。おいしい果物や米もできますし、これに対して県も後押しをしていただきたい。やっている市町村に対して、それに上積みといいますか、増額の支援などの検討していただければ、さらに進むのではないかというふうに思いますので、南陽市が削ったからと足してもらってもしょうがないですけども、南陽市も削らないようお願いしたいのですが、県も後押しをしていただきたいというのが具体的なお願いであります。よろしくお願いいたします。

#### 知事

農業は山形県の基幹産業だと思っております、これからはますます本当に大変厳しい状況にずっとなってきて、農業予算が東北で最低という。ここから本当になんとか抜け出したいというような気持ちでいるわけですし、むしろ山形が日本の中の食料基地、そのようになっていければなと思っております。

芸工大の先生などのお話をお聞きしますと、東北六県回ってきて山形県だけが景色が違うって言うんですね。それは何故かという湿度が高いと、水っぽい景色だと言うんですけれども、確かに他県から山形にきた学生たちが、「山形の夏は過ごしにくい」と「暑くて暑くてカラッとしていない」と言うんですけれども、その気候が農業にとっては逆においしいものを育ててくれるというか、私はそんな気がしております。水分のたっぷりとしたおいしい果物とかですね、きれいな花栽培とかですね、その山形の気候が適しているんだと思っております。本当に。農林水産業活性化推進本部を作って、これからはしっかりやっていくつもりですので、生産者の方々、一緒によろしくお願ひしたいと思っております。

エコ農業、本当に大事だと思っております、エコ農業推進課という担当課もあるくらいでございます。付加価値の高い農産物を作るというのはね、加工、製造するというのもひとつの方法でありますし、もうひとつは減農薬とか無農薬とか質的に良質なものを作ると、二つの方法があるだろうと思っております。エコ農業、これからはますます大事にしていかなければならない方法だと思っております。堆肥農家についての補助でしたけれども、これは総合支庁ではどのようになっていますか。

産業経済部長

今、堆肥の有機農業の推進の関係、堆肥のお話がありましたけれども、先程、発言ございましたように、環境と調和した畜産、畜産の場合、非常に堆肥の処理がなんですか下の始末が大変なわけですけれども、環境と調和した畜産経営と更に循環型農業形成を図るということから、県といたしましても、畜産農家と耕種農家の連携した堆肥の利用について、推進を図っているところでございます。

その際に大きく問題になりますのが、ひとつは堆肥、これを、牛の下の物を堆肥化するための供給のものと、さらにはその作った堆肥をですね、畑に入れる・散布する機械、こういったものが必要になってくるわけでございますが、それぞれなかなか大変に高価なものということで、私どもの方といたしましては、国・県の補助事業によって、関係機関と共に導入について支援を行わせていただいているところでございます。

市長

農業委員会の件については、職員のスキルを高めるというのが何よりも大事だなというふうに思って聞いておりました。で、仕事量が増えて人員が減らされるということがないように対応したいと思っております。

それから、エコ農業、あるいは循環型、環境型ということについては、特に石油が高かった関係もあったんだと思うんですが、化学肥料が相当高値になっているということもあって、肥料の中で堆肥が非常に重宝がられているというか、要求が多くなったこともあって、最近不足気味になってるんですね、逆にこの畜産農家の方から出てくる堆肥が不足しているということなどもあります。いろいろとまだ利用されていない畜産家もいますんで、その辺も含めながら、県と様々相談をして、できるだけこの有機農業さらに畜産水田果樹連携した農業が確立できるようにがんばっていきたくてこう思っておりますんで、特にそういうノウハウをもっている方にはご指導、ご支援、ご協力よろしくお願ひしたいなと思っております。よろしいですか。

司会

ありがとうございました。それでは農業問題だいで続きましたので、一旦終わらせていただきまして、次にどんなことでも結構です。質問のある方手を挙げてください。

#### 【9 国民健康保険料について】

☆ 知事さんの御苦勞になってやられた『さんさんプラン』全国で初めて30人学級ということで、県政の厳しい時、あの様な御決断をされて、『さんさんプラン』をやられたという事は、すばらしい事だと私は思っております。それで、その度胸で、ぜひ私のお願いを聞いていただきたいなと思います。

国民健康保険なんですけど、これは市町村別にお金が変わっているわけですね。それで、山



形市で住む人も南陽市で住む人も、お医者さんに掛かる時の医療費は同じでも、負担は違うわけですね。それを、ぜひ県で一本化して、国民健康保険料を一本化できないかと。私は、全国に先駆けた『さんさんプラン』と同じ様に、全国に先打って、県で一本化して、事業を進めて頂きたいなど。そうすると、山形に住んでる人も小国に住んでる人も南陽に住んでる人も、国民健康保険料全部一緒、医療費掛かるのも全部一緒。このようになると思います。できれば、国一本化にして頂きたいんですけども、とりあえず山形県で一本化に、是非『さんさんプラン』の度胸でやって頂きたいなどと思います。よろしく申し上げます。

知事

すぐに「はい、分かりました。」と言えないのが、大変申し訳ないと思いますけれども、気持ちといいますか、御意見承って検討させていただきたいと思います。度胸がないわけではないんですけども、よく調べて検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

司会

ありがとうございます。なかなか答えにくい質問もあるかと思いますが、みなさん、ご理解をお願いしたいと思います。女性の方、お願いいたします。

#### 【10 婦人会について】

☆ 南陽市連合婦人会でございます。この度、この様な機会を与えて頂き、婦人会といたしましても、大変感謝申し上げます。

私達、婦人は、男女共同参画社会の現実を目指し、女性の地位向上のため、関係団体との連携を図り、明るい住みよい地域づくりに務めております。具体的には、環境に関する勉強会、市長さんを囲んでの懇談会、健康に関する勉強会などを実施し、また年一回、研修旅行を通して、会員相互の研修を深めて参る次第であります。私達はこのような活動をしなが、地域に根ざした婦人団体として、明るく住みよい地域づくりのお手伝いをして行きたいと希望しております。

しかしながら、昨年度の会員は **155** 名おりましたが、今年度は **145** 名に減少いたしました。会員資格は婦人だという事で、年齢制限はありませんが、募集しても全く反応がなく困っている状況です。

今は、この会員減少をどの様にして食い止めるかが、一番の課題になっております。この様な状況をどの様に解決したらよいか、知事さんのお考えをぜひお聞かせください。

#### 【11 男女共同参画について】

☆石田地区の主婦です。

男女共同参画について、お話したいと思います。吉村知事さんがいらっしゃると聞いて、嬉しくて、とことこ歩いて大汗かいて、やって参りました。

1995年に第四回世界女性会議が北京で行われました。その時、日本人の女性団体が5000人行ったといます。「なんだ、観光旅行と同じでねえが」という悪口も聞かされましたが、その年の11月に、日本女性会議が日比谷公会堂を満杯にして、すぐさまやりました。だから、見てきて聞いてきた人達は確かに刺激を受けます。

山形県でも政府が音頭を取って、名取はにわさんを始め、いろんな人を招いて講演会がありました。それから約10年。考え方が浸透するには10年はかかると言ってますが、本当だと思います。それで、講演会だけでなく学習会の様な中で出た話ですが、「おらいの家は、おらだ夫婦、親夫婦と息子夫婦、そして孫とみんな役割に応じて、仲良く暮らしてんのに、なんで女子（おなご）ばかりしゃしゃり出んなねなや。」という生の声。また、「夫を主人と言うのはやめよう。主従関係ではない。パートナーだ。」「何言ってんなや。そだな事、今更目くじら立てっごどねえごで、慣習だもの。」「いや、日本の漢字見でけらっしゃい。娘、嫁、姑、家内、なんていう言葉も、字を見れば差別語になってる。もっと言葉に敏感になろう。」なんていうのもありました。東大教授が来て、講演した後に、フロアから男性が大声で言いました。「おめえみでなバカな女子（おなご）がしゃべくり回ってっから、日本の女子をバカにすんなだ。」という声。でも、色んなこういう生の声を話す事によって、「あ、おかしいのか。うん、そうだな。」というふうに分かっていくのです。それで、婦人会長さんも言いましたが、女だけが意識改革してもダメなんで、こういう男性と女性が一緒にいた所で生の声を話し合う事が、一番分かるんじゃないかと。終戦のとき、軍国主義から民主主義になりましたが、何が何だか分かりませんでした。いろんな考え方が出て来た時に、「ああそうだ。」と分かるのが3割。「何言ってんだ、バカ。」というのが3割。「よっくど分がね。関係ない。」が4割です。その中間層の人をどうやって引き上げていくかが、問題だろうと思います。

知事さんは5割強の支持をいただきましたが、油断できません。反動もあります。時の流れで世論は移り変わります。でも、そんなこと気にすることありません。大盤振る舞いなどしないで、着実に県の舵取りをしてもらいたいと思います。それで、千葉の堂本さんも引退しました。残念です。その分も含めて、山形県の知事に応援していきます。ありがとうございました。

## 知事

本当に力強いお言葉、ありがとうございます。あの、本当に身に染みてお言葉を噛みしめて、がんばってまいります。

今、全国で女性知事は、私で3人でございます。北海道の知事、滋賀県の知事、山形の私でございます。もうちょっと増えればいいのになと、実は私も思っております。

やはり女の人が住みにくい社会は、男の人も住みにくいんじゃないかなと思います、

そういう事を今言ってもしょうがない事でございます、今のご発言の様な方がたくさんいらっしゃるということが、女性知事誕生にもしかしたら繋がったのかなと思っておりますが、男性の方もたくさん私に票を入れて下さったというのも出口調査で聞いておりますので、特に山形の場合は、男性とか女性あんまり関係なく、割とね、してくださっているのかなと今回で私は感じました。男とか女とかに関係なく、やはり山形県全体、県民の皆様全体のための事を考えて、これからしっかり県政に取り組んでいこうと考えておりますので、これからも応援お願いいたします。

それで、先程の婦人会の会員が減少して困ったという声をお聞きして、さぞかしお困りだろうと思いました。1年で**10**名も減って、会員減少をどの様にして止めたらいいか。名案というのがあれば欲しいんですが、やはりすぐにお答えはなかなか難しいかなと。ただ、どうして婦人会の皆様ががんばってらっしゃるのに、無関心になって来た方々が多いのはなぜなのかなと、そこら辺から考えて、リサーチと言いますか、マーケティングと言いますか、知り合いの方に、例えば依頼して「どうして入りたくないの」みたいな、理由みたいなものを少し何人かにお聞きになったら、対策も少し立てられるんじゃないかなというふうに、今考えてたんですけども。やれる事とやれない事と出てくるとは思うんですが、やっていける所からやっていく事で、少しずつ問題が見えてくるかもしれませんね。よろしいでしょうか。

## 【12 赤湯停車場線について】

☆ 赤湯温泉通り商店街振興組合から参りました。よろしくお願ひ申し上げます。

ただ今継続中の赤湯停車場線の道路事業では、大変県の方からお世話になっております。この道路についてですけれども、南陽市内の子供が、市立図書館に通う大事な道でもあり、生活者、特に大型店に行けないお年寄りや、生鮮品を買いに来る、食をつなぐ大事な道でもあります。そして、他県からいらっしゃる観光客の方が駅から歩いてくる途中に、右・左と見られて、暮らしの中を見られる道でもあります。この様に人々が丁寧に暮らしをしている中では、本当に抜くことのできない、大事な道だと思っております。

ただ、平成**18**年以降は、事業が中々進まない状態でありまして、本当に早く全工区の早期実現をお願いしたく参りました。どうかよろしくお願ひ致します。

☆ 健康組合女性部で作っております『ゆかいクラブ』でございます。

「夢を叶える、いいまちづくり」をもじって、『ゆかいクラブ』としております。この度、東北電力の事業でございます『まちづくり元気塾』という所に、**23**件応募あった中から赤湯温泉が選ばれました。いろいろとアドバイスを受けて、これからもっといいまちづくり、賑わいのあるまちづくりを目指して行きたいと思っております。

これには、市長はもちろんでございますが、県議が議長になる前でございますけれど

も、大変力を入れていただきまして、私達も心強く思っております。こちらに東北電力の資料もございますので、後ほどお上げしたいと思います。

どうぞ、こちらの第2区・第3区の工事をなるべく早く、観光客、地元の住民が安心して通れる町を作っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

☆ 赤湯地区のちょうど温泉街から赤湯駅へ向かっての中間地点位で商店を営業している者なのですが、やはり途中まで、第3工区分くらいまでは、ちょうど赤湯と国道13号線の間の大体中間地点くらいまでで終わるんです。その後の計画が無いということですが、駅から表町商店街に向かって、長いひとつの一本化した道路の拡幅というのがなければ、あまり意味がないのではないかというふうに思いますので、ぜひとも途中から尻切れトンボという形ではなくて、長いひとつの一本化した形での商店街の活性化とか、そういうものも含めての一本化した、これからの計画をお願いしたいと思います。

#### 知事

ありがとうございます。

ここに来る前に、市長さんからご案内いただいて、赤湯停車場線街路事業というものを拝見させていただきました。おっしゃるように、平成18年からなかなか進んでいないと第2工区第3工区ですか、いまお三方から、実際に住民の皆さんからお話を伺って、地元で皆さんが心から望んでいらっしゃるという、そういう事業なんだなというふうに、いま受け止めたところでございます。やはり道路というと、「道路を作るのが悪いことだ」みたいな、そういうイメージを持たれた時期もあったと思いますが、私はやはり、必要な物は必要だと思っておりますし、街づくりというものも絡めて、観光というものも絡めて、進めていく事が大事なことだと思っております。

山形という所は、本当に観光資源がいっぱいある所です。赤湯もそういう所だと思います。おいしい食べ物もありますし、ゆったりくつろげる温泉もありますし、何よりも豊かな自然、美しい風景。そして、おもてなしの心といいますか、山形県の人というのは、暖かな人情を持っています。それは、本当に山形県の宝物だと思っております。観光ということに力を入れていきたいとも考えております。省庁回りの時に、観光庁長官ともお会いしたんですが、「山形県ぐらい、観光資源の豊かな所はないよな」と、おっしゃってました。ですから、県外の方もよくよくそのことを存じてらっしゃいますので、いま、『おくりびと』とか『天地人』とか『モンテディオ山形』、そういう事でも本当に山形県がここで女性知事の誕生という、ちょっとおまけが付くんですけどもー山形県は結構、最近注目を浴びております。その追い風も生かして、山形県のいい所を積極的にPRして、山形に来ていただく、観光誘客というか、そちらの方につなげていきたいなと思っております。

道路の事について、何か用地買収が少し進んでいるというお話があったんですけれども、総合支庁からはどうでしょうか。

#### 建設部長

赤湯停車場線ですけども、都市計画街路事業という事で、平成14年から始めております。もう、6・7年経つわけですけども、去年の6月に、改良区間660mのうち、約半分につきましては改良済みで供用をしております。引き続きまして、本年度は、東側からY字路になっていますよね。その辺までにつきましては、用地買収を進めることとしております。

先程、平成18年度頃の事業費が少なくて、ストップしたという話がありましたが、街路事業のピークが平成10年。実に180億を越える様な予算があったわけです。去年、たったの30億を切る様な形で6分の1以下になったということがあります。そういうことで街路事業についての県予算は、ものすごい勢いで減少したという事です。それで、赤湯停車場線につきましては、本年度、骨格予算では1億弱ぐらいしかついておりませんが、肉付け予算・補正予算等でかなりの予算増額を見込んでおりますので、いま残っている330mぐらいの区間の半分ぐらいは用地買収できるんじゃないかと、事業促進方がうまくいくんじゃないかと考えております。

また、先程、駅の方に向かって、まだ事業がなっていないわけですけども、それにつきましても、都市計画決定は駅から13号までとなっております。それで、順次東側から事業を進めていきたいと思っておりますので、かなりの時間が掛かるとは思いますが、気長にお待ちしていただきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思っております。

#### 知事

着々とやっていくという報告でございますので、ぜひ見守っていただきたいと思っております。また、ご協力もよろしくお願ひしたいと思っております。

#### 司会

ありがとうございました。それでは知事の方から観光の話などでしたが、観光の質問等ございますでしょうか。

#### 【13 鳥上坂の景観について】

#### 【14 白竜湖の景観について】

☆ 赤湯ワイン組合を代表して、赤湯には全部で4件のワインメーカーがあります。鳥上坂の山を眺めていただきたいんです。今ビニールハウスかかってまして山全体がキラキラと光っていますが、あの1年毎にあのキラキラが無くなっています。ということは、3年後に多分あのぶどう畑は、半分くらいになるんでないかなあ。というような、大変

な実状になっております。耕作面積もさることながら耕作している人の年齢が、70台平均いってまして本当にあともう5年すれば、というこれは本当由々しき問題なんです。ただ、なかなか私たちワインメーカーとか実際、うちもあそこの鳥上坂でぶどう園をやっております。で、今日たまたまビューポイント、えっと県内内陸・置賜版にビューポイントというのが山形新聞に出ています。そこに、うちのぶどう園から眺めるビューポイントが載っていました。で、今日知事さんとお話することに、私ちょっとエネルギーを感じまして今日は絶好のチャンスと思って、さっきから手を挙げているんですけど、やっとまわってきました。で、助けていただきたいと言ったらおかしいんですけど、あのワインメーカーが4社、元気良く若者が、後継者育てております。ところが、ぶどうの耕作面積、ワイン用のぶどうですね。今までは生食用のぶどうでみなさん、まあ前向きな意見が出ていましたけど、醸造用品種がなかなか難しくなっております。まあ一生懸命自前で作る分には作れるんですけど、作る量というのは限られています。一度あそこに立っていただきたいんですけど、石ころだらけで非常に急勾配です。全部南側を向けて北側にぶどう園を作っております。これは白竜湖から昇る風が非常に上昇気流になって、あのハンググライダーもあそこメッカになっております。ところが、耕作面積が減ることによって、立木が出てきたもんですから、ハングの風もなかなかいい風が来ないというので今ハンググライダーの人たちも気流が捕まえられなくて問題になっているらしいです。という事で私は、農業でお話をしたらいいのか、観光でしたらいいのかちょっと悩んで手を挙げたり下げたりしていましたが、これは山形県の本当に貴重な財産だと思うんです。南陽市国道13号線に入ればあの風景というのは13号からも新幹線からも眺められます。みんな、うちにいらっしゃる方も「ぶどうを使って作るからワインがおいしいんですね。」と言われるんですね。と言うと私はこれは絶対に守っていかないとダメだ。というふうに本当その度に気持ちを新たにしているんですけど、何せ、方策が見つかりません。市長さんにもちょっと就任当時お願いしたんですけど、なかなか難しい問題でして、皆さん「あそこは難しいよな・・・。」と言うんですね。でもこれ観光から言えばすばらしい財産だと思うんです。後でそれをちょっと書いた本がありますので、ご覧になって下さい。あそこを何とかしていただきたい。っていう思いで今マイクを握らせていただいています。よろしくお願ひします。

#### 【15 観光誘客について】

☆ 駅前サービス業を営んでおります。本県におきましては、農業と並んで観光というのは大きな産業になっていると思います。それで、3つ程お話を聞いていただきたいんですけども、先程知事さんもおっしゃいました通り「おくりびと」効果・「天地人」効果というのは非常に大きな効果を持って全国から注目されていると思います。で、庄内映画村の方もありますけれども、と言うより、全国化、映画・テレビ・ドラマを誘致

するように進めていただきたいと思っておりましたところ、そういう団体があるんですね。山形フィルムコミッションという団体があって、誘致支援というように努めているそうですけれども。それにつきましても各市町村なんかのご理解というものも必要と思います。塩田市長さんに一つ提案しますけれども、いいでしょうか、赤湯温泉殺人事件とか、百年に一度お湯が赤くなった時に大震災が起こるとか、そういうことで一つ 2 時間ドラマとか誘致したらいかがでしょう。第 2 点であります、朝日新聞のですね、みちのくワイドといいまして、5 月 12 日号の記事ですけれども、非常におもしろい事が載っているんです。読みますと、東北の祭りがみんな旧暦の七夕後の 8 月 3 日が中心。これでは東京のお客さんが少ししか見に来られない。というような記事が載っております。山形県の方でも花笠まつりやってますけれども、花笠まつりとか竿灯とかねぶた、仙台の七夕とか同じ時期にありますもんで、これ一緒にやった方がいいのか、それとも離れた方がお客さんが集まるのかそれは私では分かりませんが、大手旅行代理店なんかの担当の方とお話して、東北 6 県のお祭り担当の方とお話して、どのようにすれば東北地方にお客様がいっぱい誘致できるのか、そういうふうな検討が必要だと思います。最後、3 点目ですけれども、こういうふうな大変な観光、特に、宿泊業というのが山形県における就職先の一つになっているんですけれども、そのための人材育成の機関、学校が全然ないということが一つ大きな問題だと思います。農業高校はありますし、農業大学もあります。しかし、観光宿泊に関する学校が一つもない。これは非常に残念なことだと思います。山形県に必要な人材は山形県で育成する。例えば南陽高校の情報会計科が今度廃止されるわけですけれども、その代わりに宿泊観光科を作るとか。米沢女子短期大学に観光科を設置するとか、このようにして是非とも観光に対する人材育成というのが今後山形県に大切になってくるのだと思います。ひとつよろしく願いいたします。

☆ 南陽市三間通りの者です。各市町村にですね、このような形で各市町村を回られている知事に対して本当に今後の県政にですね、並々ならぬ気持ちを持って取り組まれている、ということで私共も本当に期待している所でございます。よろしくお願いを申し上げます。私の質問は高尚なものではなくて、ごく当たり前のことなんですけれども、今までいろんな質問をされた方々がおありまして、観光事業なんですけれども。今日ですね、26 日の読売新聞の中で自治体総点検という中身がございました。その中には 13 市の台所事情がでております。いずれも市税収入の減少するなか、9 市がですね、プラス予算で編成されておりました。大きな要因としては、この編成された中身はですね、市の借金にあたる市債の発行によって出来ております。今後の返済にあたりましても、やはり市の財政が圧迫化することは間違いないのでございます。まあ、これからは国からの財政も当てにならない、やはり山形県は山形県で収入を得る道は何かということを真剣に考えていく時期ではなかろうかと思えます。まあ、その中で一つだけ提案をした

いわけでございますが、今非常に外国に出かけて行っている、海外に出かけている、まあ何ていいますか、お金持ちの人たちが沢山います。あるいはまた、一日なんぼで暮らさんなんね、という人だって沢山おるわけでございます。でもやはりそういう海外に向けられている人たちを是非国内の方に、特に南陽市の方にですね、おいでいただくような施策を講じなくては、南陽市の収入も得られないわけでありまして、南陽市の収入が多くなれば県の財政も豊かになるわけでございますから、特にですね、その辺を私は思うわけでございますが、とにかく、国道13号線の付近を見ますと、米沢、南陽、上山、天童いずれにして温泉街があるわけでありまして。その辺をやはりそのPRを強くもっていく必要があるのではないかと思うわけでありまして。特に、南陽はですね、先程知事も目で確かめられたように、ぶどう、さくらんぼ、それから宮内には熊野大社、それから、南陽には烏帽子山公園の千本桜と、本当にこのPRすれば限らない地所があります。まあそういうことをですね、やはりその県の職員の方もただゴロゴロとは言いませぬけれども、やはり汗をかく必要はあるのではないか。そしてそのただ職員を使うだけではなくて高齢化社会においてもブラブラしてグランドゴルフしたり、いろいろされている方もいっぱいいるわけでありまして。だから、職員の方を高価な金額で使わなくても、そういう人たちをボランティア方々半分くらいの値段で是非その、東京なり、そういう所に行つてですね、PRを兼ねて山形県が、あるいは南陽市の温泉はこういう所がありますよ。さくらんぼはこういうところがというようなですね、本当にきめ細かいPRをですね、県知事が自ら、宮崎県知事みたいにならなくてもいいですから、是非その辺をですね、力強くご指導お願いしたい。そして市町村毎で実施したのでは力が、財政がありませんから、そういうことでなくて、先程どなたかおっしゃいましたけれども、天童、米沢、南陽、東根あたりがまとまって、どうするかと言うことを考えていかなければ、それをまとめるのが県でありますから、それを強く知事の方をお聞きしたいと思っております。それからちょっと、私ばかりしゃべって申し訳ないんですが、いま一つちょっと言わせて下さい。先程、南陽市長のあいさつの中でですね、生命を育てるということ。本当にこれからの日本の将来を委ねるような発言がありました。本当に私も南陽市長頼もしいな、これからも必ず一票を入れようと思ったわけでございます。ただこれを実行していただかないと、それは、絵に描いた餅になりますから是非そういうことでお願いしたいと思っております。最近のですね、いろんな出来事を見ますと、親が子を橋から突き落として殺してみたり、逆のそういうのも、事情があつてのことと思つてはいますが、やはりその日本全体の流れを見ますと、本当に悲惨なことが出ております。山形県では、是非そういうことは一つもないようにしたいものだ。これはもう知事なり市長なりもちろん考えていることだと思つてはいますが、やはりその生命を育てるばかりでなくて、子供たちを是非ですね、礼儀作法をきちんと指導していく。これは知事をお願いすることではなくて、教育長あたりが真剣に考えなくてはならない事だと思つてはいますが、やはり知事先頭に立つてですね、この礼儀作法を。それからもう一つは、朝のあいさつ、



できる子供たちに是非指導していただきたいと思います。隊列を組みながら、おはようございますと言うとすごくおはようございますと返してくれるんですよ。南陽ばかりかなと思いますんで、他の市町村でも是非これを指導していただきたいと、よろしく願いしたいと思います。それから、もう一つは、あのこれが大事な事なんです。子供たちは、言われることはするんです。ところが、先生がここにいるんです。確かに立派な先生もいらっしゃいます。ただ、学校では一生懸命しても家に帰ってからあいさつをしない先生もいらっしゃるわけなんです。こういう方が校長先生しているというのは言語道断です。私はやはり学校でも家に帰られても、隣近所に、おはようございますと言われるたらおはようと言うような先生が校長先生になっていただきたいと思うんであります。まあその辺も子供ばかりでなく先生方も是非再教育をしていただきたい。と思います。以上であります。ありがとうございます。

#### 知事

ありがとうございます。本当に広範囲なご意見だったと思いますが、観光ということについては私はやっぱり先程申し上げましたけれども力を入れていきたいと思っております。なぜかという山形県の持っているそのものが資源であり、観光の力そのものだからと思っていて、あるがままのものを、県外の方々に来ていただいて、まあ県内でもいいんですが、県内外から来ていただいて楽しんでもらって、くつろいでもらって、そうしてですね、まあ都会の方でしたら疲れた心を休めてもらって生き返った気持ちになって帰っていただくというようなそういう山形県に私はしていきたいなあと、思っている所なんです。山形県には、まだまだそういう日本の昔の心にしても風景にしても昔の物が残っている所だと思っております。そこは大事に私は受け継いでいきたいし、子孫も残していった方がいいんじゃないかと思っております。ただもちろん住み難さもありますからそこを常にやはり直しながらだと思っておりますけれども。酒田の方が今すごい元気なんですよ。あっちの方向であんなに元気なのかなあって思うんですが、ええやはりいろいろ巻き込んでやってるのかなあ。若い方々とか年配の方とか行政も民間も、垣根を越えてやっている感じがします。で、ミシュランのあれにですね酒田とか、羽黒山とか選ばれましたしねえ。ところが、内陸の方は全然選ばれてないんですよ。そこが私は物足りないって言いますか、内陸の方、山寺とかいい所たくさんありまして、これから本当にもっとそこを売っていきたくおもって思っております。あの広域連携というお話ですが、やはり役所といいますか、行政の方で出来ることといたらそこだろうと思っております。各地域ですばらしいものを持っているわけですから、そこを市なり県なりでコーディネートしながら連携しながら観光客を誘致するというふうにもっていきたくああと思っているところでございます。

先程のその鳥上坂の所、本当に、私もたまに通るだけですから、あぁいいなあ、白竜

湖だ。白竜湖が見えたら赤湯にきたなあ、って思うんですね。あそこの昔ながらの物語なども小さい頃聞いたりもしましたし、赤湯といたらぶどう、デラウエアが主だったと思いますけれども。あのワインの酒造会社が4件もあるとは今初めてお聞きしまして、是非とも地場産のそういう産業というのは大事にしていきたいなあ、と今思ったところでございます。後継者が大変だとか、石だらけの所でいろいろ大変だということなんですけれども、総合支庁の方でその事については何か認識ありますか。

#### 支庁長

私も新聞を見て、白竜湖を見たんですが、やはり一つはあそこの景色っていうのは、我々の昔から、小さい頃からぶどう棚っていう景色という認識があります。ただ、おっしゃったように経営として、ぶどう経営としてあそこが本当にこれから高齢化していく中で、適地なのかという問題があるかと思えます。ただあそこにはあの霧が上る特性があってそれでいいワイン用のぶどうが作れるんだよ。っていうような、そこを高齢の壁という部分から、そういうものを乗り越えてやってきて欲しいという部分があります。あともう一つ、ただやはり技術的にやはり岩が出てきて耕作放棄地という形になってきて。この問題はまた、この問題として、やはり別問題として考えていかないといけないんじゃないかと。そのように思います。

#### 市長

ずいぶんいろいろあったんですが、テレビドラマ、2時間「何とか殺人事件」っていうのはいかがなものかと思うんだけど、うちの方にも観光親善大使っていうのがいるんですよ。映画監督とか女子プロレスラーとか、百姓シンガーソングライターとか様々ないろいろ得意な人種がいますんで、得意な、やっぱり餅は餅屋って昔から言うからね、そういう事で少し検討してみたいなと、こんなふうに思っております。それからさっきあった鳥上坂の所は農業レベルの発想でなかなかこれからビジネスにならないと思うんです。建設とか違う感覚であそこを再開発できないかと、農林課に指示しているんですけど、なかなか答えが大変なんです。国交省とか県の建設関係の補助金を貰いながら、雇用拡大の意味であそこを何とかね、木が大きくなると段々大変になるものだから、今のうちに整備をすればまだ少し持つんじゃないか。ということでいろいろ工夫、どういう補助金で、手法でやれるかと、いま研究中なんです。だから全然ダメだというのではなくて、まあやらなければ全然だめだけれども前向きにやっていますんで、期待は難しいけれどもがんばっています。

#### 議長

ええ、白竜湖の事でありましてけれども、何もやっていないわけではない。自然が破壊され攪乱された白竜湖を環境保全という角度からだけでなくて復元再生をしようという

ことで、かなりの時間を費やしながらがんばってきました。ただ、残念なことに山大学の生物学者の先生に、猛反対されて身動きが出来なくなった、ということが実際の話でありますので、市民の皆様方にもその辺のところはご理解いただきたい。ただ、やっぱり何もしないということはいけないことだと思いますので、総合支庁の予算の中でボランティアの皆さんを育成していく、とにかく何かあったときはやるんだ、といった一つの姿勢を示していくという事だけは今がんばってやっておりますので、5万円ほどの予算をいただいておりますので、がんばって今後とも続けてまいりたいと、皆さんからのご支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 【16 こどもの健全育成について】

☆ 民生委員を代表しまして、大変知事が新しいネーミングをつけている。「子ども政策室」ですか、ちょっとその構想をお聴きしたい。亡国に繋がらないようにですね、フランスは大変増えていると聞きますけれども、よろしくお願ひします。

#### 【17 歴史・文化のパンフレットについて】

☆ 宮内の者です。今日は知事さん本当にご苦勞様です。ありがとうございます。今までいろいろとご意見お聞き致しましたが、全然浮上していないお話をしたいと思ひます。で、文化についてです。さっきご紹介いただきました部長さん方が、文化についてどの方がこう受け持っておられるのかなと思ひて聞いておったのですが、広報部長さんでしょうか、どなたが受け持ちになるのでしょうか。まずそれは別として、知事さんが掲げておられる心の通うあたたかい県政、活力あふれる山形へ、というキャッチフレーズですが、すばらしいなと思ひております。その2つのキャッチフレーズを基にするならば、やっぱりあの県民がこう十分に足元を知って、知事さんでなく私たちがです、足元を知って初めて成り立つ事ではないかなと思ひました。つまり、伝統文化、さっきあの、知事さんが残っている文化を大事にしたいというようなことをちらっとほめかされました。私うれしくなりました。いろいろと考へてみますと、私たち色んな事をこう欲しいものを述べますが、自分の足元の歴史や文化を本当に知っているだろうか。そしていろいろな農業の問題、それから観光の問題、いろいろと先人達がやってきたその積み上げを解りながら私たち活動してきただろうか、あるいは活動していかなければならぬだろうと、こう私は思ひわけです。出来るだけ県の伝統文化、あるいは、市の伝統文化、歴史、そういうものを踏まえて、そして今残っている伝統文化を継承していかなければならぬと思ひます。足元を知ること、それが一番大切なんではないか、こう思ひたんです。で、広報部長さんとかってさっきちょっと申し上げましたが、こういう市のあるいは県の歴史や伝統文化を知る手掛かりとしてマニフェスト、そういうものを作っ

いただければ大変いいのですが、これは市毎にやればいいのか、県毎にやればいいのか分かりませんが、県史や市史を見ればすぐ分かることですが、一般の市民が県史や市史をよく見る時間等ございません。まったく薄いものでも結構ですから各家庭に、こんな歴史があったんだよ、とか、こういう伝統文化が残っていると、そういうものがあれば私たちが活動しやすい。そう思っています。4月まで私がそういう仕事に携わってきた者として切に思いました。できるなら豊かなまち、あるいは市民憲章にあるように、教養を深め薫り高い文化のまちを作るためにはもっと足元のことを知ること、そしてまた遡って先人たちが苦勞してきた、伝統の文化や歴史を知ることが先決だと、私は思っております。で、それを知ってこそ初めて何か成り立つんじゃないかなあと思っております。何かこう、パンフレットなんかを作って下さる余裕があるかどうかはまた別として、欲しいなあと思っております。以上です。

#### 【18 障がい者の就労について】

☆ 南陽市手をつなぐ親の会の会長をやっております。私からは障がい者の就労の促進の情報提供、また就労についてのお願いということで、ご発言させていただきたいと思っております。障がい者の就労につきましては、障がい者自立支援法が背景になっているということは承知しております。ただし今の現状は非常に厳しい現状にあります。その中で、南陽市にあります就労継続支援 B 型の多機能事業所「いちょうの家」で、花作りや請負の仕事で一生懸命がんばっているところでございます。ただこの不況になりまして「仕事がない」というような状況が続いております。その中でなんとかしなきゃならないというような支援者、保護者の考えでキムチ作りまた、農作業で畑をお借りしまして野菜作りをしました。そしてまたこの度、南陽市役所の食堂をいちょうの家で運営することになりました。それで常時障がい者4名くらいが弁当作りに励むわけですが、市役所の食堂は一般の方もご利用できますので、その中で一般の方とふれあって、がんばっている姿を見ていただきたいと考えております。ただ、市役所の食堂は市価の2割引きというふうな事があるそうです。安くてまずいじゃ困りますので、安くておいしいというふうな噂がたつような事でがんばっていききたいと考えております。それで知事さんにも、何か機会があったら一度食べていただきたいというふうに考えております。それでお願いなんですけど今、この障がい者の雇用というのが非常に厳しい状況にあります。その中で何か機会があります毎に障がい者の就労というものを拡大できるようにご指導ご配慮お願いしたいと考えます。吉村知事さんのますますのご発展を祈念しましてよろしくお願いたします。

はい、まず子ども政策室のご質問だったと思います。今年の4月1日から知事直轄で、子ども政策室というのを作りました。その構想といいますかね、目標なんですけど、やはりまあ、本当に具体的にいきますと、山形県の出生率を上げたいという思いがございます。ただ、そこだけを全面にだしていてもね。あのいろんな問題がからんで、それが人口減少になっているんですね。社会的に減少しているし自然的な減少もございます。ですから子育ての応援っていうものをまずしっかりやっていかなきゃいけないというのがあります。そこのところを、あれは健康福祉部、あれは教育庁等といろんなところにこう部署が分かれていたんですよ。そういうのを子育てのうえでは一つの部署にまとめて、というのが内容でございます。ただ子ども政策室に行けば子育てに関する問題についてのね、いろんな情報が得られるとか、あるいは政策をそこで検討してゆく、一体的・横断的にかんばっていくという趣旨でございます。人口っていうのは非常に大切なものだと思っております、南陽市長さんもそこのところをかんばっていらっしゃると思います。県としても前向きにそこをやっていきたいと私は思ったんですね。まあ減っているから仕方がないやと、それに合わせてやっていくだけだというのは、手をこまねいて見てるだけでは仕方がないんじゃないかと思って、とにかくかんばってみるだけかんばってみようという気持ちで私はおります。ですから福井県の方でもいろんな活動をして成果が少しあがってきているということを聞いております。結婚とかですね、それから子育て、やっぱり雇用の問題もあるんですよ。それから働き方の、働く形態の問題と言いますかね。おっしゃるようにフランスの方ではそれは人口が増える方向に転じたというのは女性と男性やっぱり助け合って子育てをやりやすくし、行政の方からその子育てに対するいわゆる支援というものがありますし、働き方、週に2、3回でちゃんと働けるとかですね、あるいは1日に何時間ワークシェアリングみたいな形で働いてやっていけるとか、本当にいろんな方向から政策をからめて全体的にやっていかないとこれは難しい。総合的なことをやっていかないとしょうがない。と。そういうものだと思っておりますので、今、雇用の問題が非常に厳しくて、今日、労働者関係の方々とも話をしたんですけどもまずそういうところをやっていかなきゃいけない、総合的にかんばっていきたいと思っているところでございます。その次に、文化のことでお話をいただきました。パンフレットと言いますかね、県史とかね、そういうもの本当にあったらいいなと私も思っておりますので、今すぐというわけには参りませんが、担当部署の方に検討するように言ってみようかなと、検討させていただきたいと思っております。本当に足元を知るということから何事も始まるんだらうなと思っております。ありがとうございます。障がい者の雇用ということで、お話をいただきました。ありがとうございます。南陽市役所の食堂でね、障がい者の皆さんが食事を作っていて下さるということで、市価より2割も安いということですから、今日ご参会の皆様方も是非そこに行って食べて励ましていただいたらいいんじゃないかなあと思います。市長さんもそういうところ本当にご協力いただいて、本当に南陽市はかんばっていらっしゃると思いました。

県としましては、障がい者の雇用というところ機会を捉えて私も言って参りたいと思っております。

最後の、教育県山形については、人づくりと言えども本当に何事もそこが基本だと私も市長さんと同じ考えを持っております。そこをしっかりとやっていきたいなと思っております。ご意見ありがとうございます。